

養殖ナマズを用いた真珠母貝種苗生産の実証化研究

佐野聡哉・岡本晴夫・根本守仁

1. 目的

真珠母貝の種苗生産においては、グロキディウム幼生の宿主となる魚の確保は極めて重要である。宿主になりうる魚種は限られており、これまで主にヨシノボリとニジマスが用いられてきたが、ヨシノボリは漁獲が減って入手が難しいこと、ニジマスは適水温が低く扱いにくいことから、新たな宿主魚が求められている。近年、ナマズが宿主として利用できる可能性が明らかになったことから、ナマズを真珠養殖業者に試験的に提供し、その有用性について評価を受けた。

2. 方法

令和3年4月20日から6月22日に、ナマズの提供を希望する6軒の真珠養殖業者に対して、水産試験場で種苗生産・育成したナマズ(図)873尾、108.54kg(平均体重124.3g)をのべ24回に分けて提供した。ナマズを提供した真珠養殖業者には、宿主魚としてのナマズの評価を適宜聞き取った。

3. 結果

真珠養殖業者からの聞き取り結果を表に示す。1軒の養殖業者を除いて、多数の脱離仔貝が得られたとのことであり、ナマズは新たな宿主魚として有望であると考えられる。

ナマズのサイズについては、大きい個体ほど体力があって良いと考えられる一方で、真珠養殖業者からはナマズのサイズが大きいと寄生作業や飼育がやや難しくなるとの感想が複数聞かれた。このことから、100g程度のナマズが好ましいと考えられた。



図 提供した養殖ナマズ(体重100g 全長25cm)

表 真珠養殖業者への聞き取りにおける主なコメント

業者	主なコメント
A	脱離仔貝が多く得られた。ニジマスと比較しても遜色ない。 取り扱いやすい100g程度またはそれより小さなサイズを希望する。
B	ある程度幼生が付着したと思ったが、脱離仔貝は少なかった。
C	脱離仔貝が多数得られた。 ナマズにカビが生えて死亡することがあった。
D	脱離仔貝が多く得られた。従来の魚種よりもいい。 脱離仔貝の数はナマズの魚体重に比例するが、200gより大きくなると扱いにくい。
E	脱離仔貝が問題なく得られた。 脱離仔貝が多く得られた。
F	大きいサイズ(概ね120g以上)は体表が傷つきやすい気がする。 時期が後になるほど、体表が傷ついた状態で死ぬナマズが増えた。